

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者様が住みなれた地域で自分らしく生活する事が出来る様、「地域の中 で普通の暮らしを支えます」の理念を掲げ、取り組んでいます。		
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と一緒に運営上の方針や目標を、毎日の申し送りの時間や会議の時に話し合いを重ね、実践に取り組んでいます。		
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの玄関に掲示しており、ご家族には面会時や家族会の時、又地域の方には運営推進会議等、折に触れ解りやすく説明しています。		
2. 地域との支えあい				
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝と夕方、犬の散歩を通して気軽に地域の方と挨拶し会話をしています。又近所の方が週2～3回の差し入れや利用者様の話し相手に来ており馴染みの関係を築いています。	○	ホームで犬を飼っている為、散歩時の挨拶を心がけ、交流を今以上に増やしていきたいと思います。又ホームや認知症の理解を深めていきたいと思います。7月にホーム長の異動があり挨拶回りをおこなっています。
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	班の一員としての回覧板回しやゴミステーション・公民館の掃除、地域一斉ごみ拾い等行っています。又、1月と8月の年2回、地元の不動尊の縁日にでかけ、地域の方が持ち寄った料理をご馳走になり、1人ひとりお土産をいただいています。	○	開かれたあかりを目指し、地域の一員としてどんどん行事に参加していきたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ご近所の方があかりの台所で利用者と一緒に料理をしてくださり、おやつや食事の時間にいたりしている。又、ご近所のご高齢の方にあかりに話し相手にどんどん来て欲しいことをお願いしたり、ご近所の方の様子等を聞いている。ディサービス利用者様があかりまで遊びに来て下さる。	○	歩いて数分の距離に自宅のある利用者様が数人いるので、どんどん地域の中に出て会話をする時間を持ちたいと思います。又、地元婦人部からの要望で針生地区住民を対象とした介護教室を開催しました。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価された点は維持向上に努め、改善点に関しては管理者より説明、職員同士話し合いを持ち改善に取り組みました。	○	サービスの質の向上を図るためにも評価を受け止め、日常業務に努めていきたいと思っています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の公表や、ホームの活動報告・利用者様への取り組み等を説明、情報交換をおこない意見をサービスに活かしています。	○	地域に密着したサービスの質の向上、又緊急災害時のご近所の協力・応援をお願いしてあり、地域の方と連携を図っていきたいと思っています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市への提出書類や会議の資料など持参している。又、市への情報・確認事項・質問など電話での連絡を行いサービスの向上に活かしている。	○	市への働きかけを行い、矢板市内のグループホーム連絡会を立ち上げ年3回交流会を行っている。これからもサービスの向上を図る為、取り組んでいきたいと思っています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度として理解はしているが、実際に機会がなく支援していません。	○	権利擁護や成年後見制度について、公的機関や内部研修で、支援の必要性・活用性を学び、支援出来る様にしていきたいと思っています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような事が虐待に当たるのか、研修会やホーム内の勉強会を行い、職員が全員学ぶ機会を持ち、事業所内での防止に取り組んでいます	○	虐待にも色々あることを常に考え、ケアに取り組んでいきたいと思っています。又、職員のストレスを把握し、虐待に発展しない様注意していきたいと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の時は専門の職員が対応し、分かりやすい説明を心がけています。特に解約時は、利用者様・ご家族が不安にならない様質問や疑問点に納得のいくまで対応をしています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別に話す機会を設け、意見・要望・不満・苦情を納得のいくまで聞いています。又、アンケートを取り職員に周知を図り運営に活かしています。	○	家族会での話し合い、ご意見箱の設置、家族満足度アンケート、第3者機関の窓口など意見が集まる工夫をしています。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に、利用者様の日常生活の様子や体調面を主に、話をしています。預かり金のある利用者様に関しては、金銭の報告をしサインを頂いています。電話での連絡も必要に応じおこなっています。月1度のあかり便りで健康面や生活面、行事など載せており好評を得ています。	○	事業所の機関紙を地域の方々に回覧したり、又、便りの中に利用者様の手紙や絵などを載せたりしたいと思います。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や不満、要望を尋ねたり、家族会開催時にご家族の意見を出して頂いています。又、玄関にはご意見箱を設置しており、多くの意見が集まるようにしています。	○	苦情や要望などなかなか出てこないのが現状、何でもいえる様な関係作りが必要と思います。利用者様やご家族の考え、思っていることをアンケートで何うなど工夫をしていきたいと思っています。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りの時や勉強会の時に、意見や提案を出す機会を設けています。	○	どんな小さなことでもその日のうちに意見や提案を受け止め、毎日の申し送りの時間に返事として職員に伝える事が出来る様にしていきたいと思っています。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	各種行事や誕生会等で外出する際には、勤務体制に無理がないよう人数を調整したり、緊急時には職員がいつでも駆けつける事が出来る体制があります。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員間の申し送りやコミュニケーションをしっかりと行い、合同レクリエーションやドライブ散歩等多くの職員と会話や接する時間を多く持ち混乱を招かないケアを心がけています。	○	異動した職員に最初の内は、時間の許す限りコミュニケーションを取って頂いています。又、馴染みの職員が行ったり来たりして声かけをおこなっています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修、資格取得に向けて案内や資料の掲示を行っている。研修には優先して勤務の調整を行い参加をしている。又新人職員には1年間プリセプターによる育成を行う等取り組みをおこなっています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の勉強会や講演会への参加を通して、ホーム同士の交流を行い問題を共有し、ケアの改善に取り組んでいます。又、矢板市内のグループホーム同士の交流会が4月より発足し、情報の交換を行っている。	○ 市内のグループホームが3カ所になり、交流会を年3回巡回で開催しています。情報交換を行い、サービスの質の向上が図れるようにしていきたいと思います。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	利用者様から離れた場所での休憩や自分なりの時間を持つ体制をとっている。又、親睦会や個別に意見や話を聞く時間を設けています。	○ 面接を小まめに行い、心配・不安・体調管理など、早めに気づくよう声かけを多くしていきたいと思います。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各種講習会(接遇、透析の仕組み、栄養面等)、研修会へ全職員が参加出来る様配慮すると共に、定期的なケアの質の向上を図るための勉強会を行っています。又、資格取得への支援もおこなっています。	○ 教育委員会による資格取得の為の、研修会案内の資料配布をおこなっています。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居中の方がどのような場所で生活をされているか、出来る限りご家族と一緒にご本人にも施設を見学していただいています。ケアマネージャーさんと連携を図り、ご本人やご家族の思いを受け止め話やすい雰囲気を作り・傾聴を心がけています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話相談や来訪時に、要望・悩み等をゆっくり時間をかけご家族の思いを受け止める努力をしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の話を良く聞き、又ご本人の行動や言動など注意深く観察し、今どのような状態でどのような支援が必要か、適切なサービスの利用を検討しています		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならないうちに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	通所サービスを利用中に会いに出かけたり、ホームの方へ友達と一緒に飲みに来て頂いたりしています。又、会話を多く持つことで徐々に緊張をほぐし、他利用者様との会話の橋渡しが出来てお手伝いをしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に料理・掃除・買い物・散歩・農作物の収穫を通し、喜びや達成感を味わったり、会話やレクリエーション等から昔ながらの行事や慣わし、又生活の工夫などを教えて頂いています。	○	夜、洗濯物干しや洗濯物たたみ、食器拭き、掃除など、一緒に手伝ってくださる利用者様がいます。感謝の言葉掛けや、ご本人の気持ちを大切にしたい取り組みをしていきたいと思っています。
28	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者様の様子や気持ちをお伝えしたり、外出や行事など触れあう機会を持ち、共に支えあう体制を築いています。	○	ご家族と連絡を密にして、ご家族と触れあう時間を多くとれる支援をしていきたいと思っています。
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	電話や面会時に生活の様子や状態を説明、又ご家族の要望を聞いたりしています。面会時間の制限もなくいつでも面会に来ていただける様になっており、ゆっくり話が出来る場を提供しています。	○	絵手紙や季節の挨拶など、利用者様自身がいつでも近況報告できる様、お手伝いをしていきたいと思っています。
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお店への買い物・床屋などへの支援や、一緒にアルバムを見て名前を聞いたり、昔仕事をしていた場所を訪れたりしています。	○	馴染みの方が気軽にホームに来訪できる取り組みを、おこなってきたいと思っています。
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	テーブルを1つにまとめ、レクリエーションや利用者様の会話に職員が間に入り会話の橋渡しを行い、仲間作りのお手伝いをしています。又散歩も何人かでいっしょに会話が出来るとの支援をしています。	○	他利用者様が他居室へ訪室し、日常的に会話やお茶と一緒に飲んだりできる、入居者同士より良い関係作りのお手伝いをしていきたいと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や他施設に入所された場合は、面会に行ったりしています。ご本人やご家族に会った時には声かけ挨拶をおこなう様にしています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活や会話の中から、ご本人の思いや希望を引き出し、その方にはどのような支援が必要なのか話し合い、その人らしい日常生活が送れるよう支援をしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族から必要に応じて情報の収集を行っています。又介護支援専門員と連携を深め情報の交換を行っています。	○	H19年度よりセンター方式を導入し「その人の思い、その人らしさを大切にする」をスローガンに全員で情報の収集に携わっています。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	業務の申し送りや状態観察、報告・連絡・相談等で利用者様の生活パターンや状態の把握に努め無理のない生活を送る事が出来る支援を行なっています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様、ご家族の意見や要望をお聞きし、さらに職員の意見を取り入れ、相談をしながらプランを作成しています。	○	利用者様の思いを大切にし、利用者様本位の日常生活を、より豊かに送る事が出来るプラン作りを心がけていきたいと思っています。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	朝・夕の申し送りや日常の状態把握をしっかり行い、状況の変化が生じた場合、支援方法をご家族職員同士話し合い、プラン変更をしています。	○	プラン変更を口頭や記録だけでなく、赤、青のボールペンを使い、しっかりプランに乗せていける様にしていきたいと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記入し情報を共有することで、新たな意見が見出され、計画の見直しに活かしています。	○	日々の様子を詳しく記録することで状況の変化が分かり、情報を共有することで気づきやケアの工夫に活かし、柔軟なプラン作成をしていきたいと思います。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携を結んでおり、24時間の医療が受けられる体制があります。医師や看護師が定期的に来居し相談をしたり処置が受けられ、利用者にとって通院の負担が軽減しています。又外出など本人の要望に直ぐ対応できる支援をおこなっています。	○	利用者様が急変し連携先へ報告、救急車で搬送・入院となるが早めに退院となり退居にならずに済んだケースがあります。連携の強化を図っていききたいと思います。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各種ボランティアの訪問、消防署による年2回の避難訓練、市や地域コミュニティの催しに参加しています。	○	どのような地域資源があるのか情報を収集し、どんどん地域の中へでる支援をおこなっていききたいと思います。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者様やご家族の要望・意向をお聞きし、隣接のデイサービスに遊びに行ったり必要に応じて対応をしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、運営推進会議の中での情報交換に留まっており、具体的な取り組みはおこなっておりません。	○	権利擁護などの具体的な係わりも考えており、連絡を取り合いおこなって行きたいと思います。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の付き添う受診などは、連絡を取り合い柔軟な受診が出来る対応をしています。又職員が付き添う場合、付き添う職員も考慮し医療側との情報交換を行いながら利用者様が安心して診察が受けられる支援をしています。	○	利用者様やご家族の希望される「かかりつけ医」を大切に、安心して受診できる取り組みや情報の収集を継続して行っていきたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者様の主治医と受診時や来診時、又は状態変化時など綿密な相談を取りながら、診断・治療を受けています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同敷地内事業所の看護師や医療連携看護師の協力を得て、相談をしながら健康管理や医療の情報収集をおこなっています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院へ職員が訪問したり又は電話での連絡など、利用者様・ご家族の意向に沿った相談や対応をしています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	面会時・家族会・運営推進会議などで、重度化した場合のあり方について話し合いをして情報を共有しています。	○	終末期に向けた取り組みは利用者様、ご家族、母体医療関係者(医療連携関係者)と良く話し合いながら取り組んでいきたいと思っています。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	同一法人にクリニック・老健があり、現在の状態を考え『どの場所がよりよく暮らせるのか』、利用者様・ご家族・主治医と相談をしながら支援しています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時には使用していた家具、写真、飾り物・日常生活用品などを持ってきていただいたり、これまでの生活のあり方を十分考慮し傾聴を心がけています。退去時にはご本人様やご家族と情報の交換や十分な話し合いを持ち、不安な気持ちにならない様、言葉かけや状況に応じた対応をしています。	○	退居時にはご本人、ご家族、受け入れ先の施設の方と一緒に担当者会議を開き、住み替えによるダメージを防ぐことに努めていきます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 ○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者様の尊厳を傷つけない様、声の大きさ・言葉遣い・態度に注意しています。記録は決まった場所に保管し目に付かないようになっています。	○	職員が利用者様の思いを汲み取ろうという姿勢が大切である。毎日の申し送りの時間や勉強会・研修会で意識の向上を図る取り組みをしていきたいと思います。
51 ○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	傾聴を心がけ、1人1人に合った答えやすい言葉かけを行い自己決定できる様にしています。	○	1人ひとりが自己決定出来る機会を持つことで、活躍の出来る場を多くしていきたいと思います。
52 ○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室での読書、レース編み、貼り絵制作など利用者様1人ひとりのペースを把握し、相手の気持ちに寄り添うケアをし希望に沿った支援をしています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時に髪の毛を整えたり、服を一緒に選んだりしています。又、毎朝整容の時間を設け支援しています。ご家族と美容室へ月1度行かれていたり、2ヶ月に1度ボランティアが入りカットを利用している方もいます。	○	髪に櫛を入れ整える、ボタンの掛け違い、利用者様の口ひげ・産毛・目やに・異臭等、整容に特に気を遣っています。
54 ○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材購入・食事の準備・片付け等、個々の能力にあわせ一緒に行っています。又ホームの畑で作った野菜を採って来て味噌汁を作ってもらったりしています。	○	嫌いなメニューには、食べられる物を提供するようにしています。
55 ○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	1人ひとり声かけし、好きな飲み物やおやつを選んでいただいたり、入浴後は乳酸飲料やジュースなど選んでいただいています。又、毎朝牛乳を欠かさず飲まれている方もいます。	○	利用者様の好みを把握し選ぶことのできる場を提供していきたいと思います。又バイキングなど実施しました。これからも多く取り入れていきたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの自力排泄の支援をしています。又、誘導・介助が必要な方には排泄チェック表を使用して状態の把握に努めています。排泄の失敗には不安・羞恥心・プライバシーに配慮した対応をしています。	○	日中は布パンを使用しトイレ誘導や声かけ・見守りを行い、リハパンの使用を避けていきたいと思います。
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者様の好きな時間帯・回数などご本人の希望に合わせています。1人ひとりの好みの温度・湯の量などにも配慮してゆったりした入浴を心がけています。		
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は散歩や体操を取り入れ出来るだけ体を動かし、適度な疲労感を得ています。寝付けない利用者様には、フロアでテレビを見ていただいたり、話を良く聞いたりして安心して入眠して頂ける様支援しています。又、希望により、主治医と相談し眠剤を使用されている方もいます。		夜間に咳がひどく、痰が絡み睡眠が良く取れない利用者様がいますので、咳が緩和されるよう睡眠前にネブライザーを使用しています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫・貼り絵・お琴など、利用者様1人ひとりに合った楽しみや活躍できる場面を多く作る支援をしています。	○	日常生活の中で、利用者様の持てる力を引き出し、活躍の出来る場面を多く持ち、自信につながるような支援をしていきたいと思います。
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望や力量に応じて、又ご家族の意向を伺い管理方法を決めています。買い物時自分の財布から支払う時は職員が見守りし、残金を職員と一緒に確認したりしています。		
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は庭先に出てベンチに座り会話やレクリエーション、散歩、買い物など外に出る機会を多く取り入れています。又、ドライブや季節に応じて花見に出かけています。	○	散歩やドライブ等多く取り入れています。利用者様の歩行状態や体力を考慮した支援をしていきたいと思ひます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	馴染みの薬局や理容店、洋品店へ買い物に出かけ、会話を楽しんだり、誕生日の夕食や友人宅など行ってみたい場所への支援をご家族と協力をとりながらおこなっています。	○	庭園めぐりや季節の花畑など、利用者様の日常生活をより豊かにするお手伝いを、おこなっていききたいと思います。
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアーに電話が設置しており、いつでも電話の支援をおこなう事が出来る様になっています。又、絵手紙教室で書いた葉書や、年賀状を出したりしています。	○	贈り物(母の日、誕生日、その他)が届いた時は、お礼の電話を必ず入れる様利用者様に声かけ、送り物が届いた事を伝えています。
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	親戚や知人が来居時は玄関まで出迎え、くつろいで会話ができる場を作り、お茶、茶菓子、食事なども提供し、来やすい雰囲気心をかけています。帰る際はまた来ていただけるよう声かけをおこなっています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行ない、職員同士声を掛け合い、利用者様の人権を尊重し拘束のないケアを職員全員でおこなっています。	○	職員全員が「拘束はしない、させない」を掲げ、話し合いの場を持ち、より良いケアの実践に取り組んでいきたいと思っています。
66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサー付きチャイムを設置、暖かい日は玄関をあけたままにしています。同一敷地内の支援センター、デイサービスの職員と協力し、声を掛け合い支援しています。7月より日曜のみ玄関に鍵を掛けています。		
67	○ 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に居る時は様子を確認し、動き始めた時や棟外へ出られた時は職員同士協力をして、さりげなく声かけをおこない安全確保や様子を把握しています。	○	利用者が1人で歩かれている時は施設内の職員が協力して対応できるように連携を取っています。
68	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具の針に関しては必要以上にいれず、必ず使用前と使用後に本数の確認をしています。薬は鍵のかかる棚の中で保管、洗剤は目の届かない場所、包丁はケースに収め各番号を付けて箱の中に入れて保管しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会や研修などで知識を習得しています。誤薬についてはマニュアル化されており、2重3重のチェックを行なっている。内服後は袋の回収を行っています。また毎朝の服装記入やガスの元栓は必ず締めるようにしています。ホーム1・5km以内の危険箇所マップがありいつでも見られる様になっています。	○	緊急対応マニュアルが作成されてあります。又、ヒヤリハットや事故報告書などを活用し全職員で話し合いの場を設け、情報を共有し再発防止に努めています。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師や消防署の協力で急変時の対応の仕方や、AEDの使い方の勉強会や講習をおこない事故発生に備えています。	○	AEDが設置されてあります。安全衛生委員会などで勉強会を定期的に行っていますが繰り返し体で覚え、忘れない様にしていきたいと思います。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、避難誘導、初期消火の訓練をおこなっています。防災担当係が、毎月防災チェックを行っています。	○	地域の方と日頃の挨拶を心がけ、交流を深め馴染みの関係を築いていきたいと思います。何かあった時協力をし得る様近所に挨拶回りを行っています。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時や電話で小まめに連絡を取り、現在の状態を説明、又、起こり得るリスクがあることを理解して頂き、利用者様が安全で自由な生活が出来る様支援しています。	○	常に状態や変化を把握し、推測されるリスクをご家族と相談し対応していきたいと思います。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定時のバイタルチェックを行ない小さなことや気になる事は報告をし、見過ごさないようにしています。医療機関と連携を図り、早めの対応をこころがけています。	○	日中・夜間の様子(業務)日誌を、毎朝主治医へFAXし、あかり利用者様の様子を伝えています。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬の説明書はいつでも確認できる様になっています。新しく処方された時は、詳しい内容が説明されます。	○	朝・夕の申し送りなどで定期的に注意を促し、緊張感を持って仕事に携わるよう話をしていきたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操や散歩、水分や繊維の多い食材の使用、麦ご飯の提供等、食事にも工夫をしていますが、医師と相談し下剤の使用も行なっています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの声かけ、見守りを行ない利用者様1人ひとりに応じた支援をおこなっています。又、近くの歯科医院に協力歯科医療機関(H20.10～)になって頂き、義歯の調整や、定期的に歯肉の状態を診ていただいています。	○	全職員が口腔ケアの大切さを理解し、又全身に及ぼす影響を認識し、食事を美味しく楽しく食べる事が出来る様支援していききたいと思います。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事管理の必要な利用者様はチェック表を使用し、健康管理表に記入している。又好む食事や柔らかく食べやすい物の提供をこころがけています。時々栄養士さんの助言を頂きメニューに活かしています。	○	2週間で1Kgの体重変化がある場合は医療連携に報告することになっています。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルがあります。又、安全衛生委員会で勉強会をおこなっています。食事前は手の消毒を行ない利用者様、職員徹底してうがい、手洗いをおこなっています。トイレの手すり、便座、廊下の手すりは毎日消毒を行い、おしぼり、タオルはハイターにつけ洗濯をしています。又緊急時対応セットを用意してあります。	○	インフルエンザやノロウイルスが発生しやすい季節には、玄関に対策を呼びかける看板を置き、設置してある消毒薬やマスクの着用をお願いしています。外出時は、利用者様・職員ともにマスクを着用しています。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	安全衛生マニュアルがあり調理器具の消毒、布巾やコップの漂白などをおこない冷蔵庫内も毎日拭いています。又、賞味期限内の食材の使用、作り置きをしないなど安全の管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にはプランターに季節の花を植えベンチを置いています。中にもベンチを設け、腰掛けて靴の履き替えが出来る様になっています。又、利用者様は日に何度も玄関先に出て花を楽しんでいます。	○	中庭で野菜作りもおこなっています。利用者様に色々な作物の作り方を教えて頂きながら、作っていききたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・居間・食堂には、季節の花を切らさないように飾っています。フロアーはゆったり過ごせるように音楽を流しており、又、カーテンで採光の調節を行っています。朝顔とゴーヤの葉で緑のカーテンをつくり、咲いた花や実を楽しんでいます。	○	季節に応じた飾り付けをおこない、共有空間の居心地の良さを高めていきたいと思います。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先に椅子を置いたり、フロアー内に長いすの談話室や和室があり自由にお茶を飲んだり、利用者様同士会話をされたり楽しく過ごされています。また、東棟にはウッドデッキがあり、デッキに出て花を眺めたりお茶を飲んだりしています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れ親しんだテーブル、椅子、タンス、テレビ、写真を持ってきて頂き、自室でゆったり過ごせる空間作りの声かけをおこなっています。	○	家具などの持ち込みは利用者様、ご家族に任せています。馴染みのものを置いていただき安心して生活できる空間作りを働きかけていきたいと思います。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日は窓を開け換気や、シーツ洗濯、布団干しを小まめに行なっています。又自室で過ごされる時は、空調の調節を適宜行ない、快適に過ごせるよう支援しています。2ヶ月に一度は、カーテンの洗濯・窓・ベッド周辺・エアコンの清掃を行っています。	○	おむつ類は速やかに棟外の所定の場所に置く事になっています。フロアーや居室のこもった臭いが感じられない様、日常的に換気に気をつけ、気持ちよく過ごす事が出来る環境を作っていきたいと思います。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は段差がなくバリアフリーの作りになっています。又、廊下やトイレは手すりが付いており安全確保を行なっています。居室の入り口も広く取っており、スライドドアになっています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口には利用者様の目線に合わせ、名前が貼ってあります。トイレの前には大きな目印があり、混乱しないよう工夫をしています。フロアーには手作りの日めくりカレンダーを設置し、利用者様と一緒にめくっています。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りにはベンチがあり、座って話ができる様になっています。又、プランターの花や畑の野菜を眺めたりしています		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
		○	家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
		○	数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域密着型として、ご近所の方やボランティアなどの受け入れをどんどん行い、地域に開かれたグループホームを目指し頑張っています。ボランティアの方からは考えていた老人ホームのイメージが覆るほど良かったとご意見をいただいています。職員一人一人が認知症とはどういうものかを考え、自己研鑽に努めよりよいケアの提供ができる様に励んでいます。